

討論の部

司会           それではこれから討論を始めます。まず中国側から日本側に質問することから始めてはどうでしょうか。

復旦A           私は今日の午後議論されてきたテーマが全然敏感な問題だとは思いませんでした。台湾問題は現状の如何を問わず、依然として中国の内政問題だからです。先ほど日本側の発表は非常にすぐれていると思いますが、あくまで日本の立場に立った発表だったと思います。皆さん、一度我々中国の立場に立って考えてみてはいかがですか？例えば、日本の北方領土問題について、私は日本の立場に立って考えてみたいと思います。北方領土問題は日本とロシア両方の問題であり、最近において転機を迎えるようになってきたそうです。しかし、例えば、もし北方領土において、アメリカがすでに利益をもっていて、そのために日本に領土を返還することが許されなかったら、日本はどんな行動をとるのでしょうか？先ほど日本側は台湾問題について様々な観点から発表しましたが、ではお聞きしたい。中国と台湾との間でどのように交渉を進めたらよろしいか、一つの政権の下に談判するか、あるいは二つの政権の下に談判した方がよいのか。

慶應（楊井）   まず一つ目の質問ですが、北方領土問題がいったいどこから出てきたのかよくわかりません。今回の我々の発表は台湾問題の平和的解決をテーマにしたものであって、ここでは北方領土に関する質問にお答えできません。二つ目の質問にはお答えいたします。中国と台湾はどのようにすれば対話できるかということですが、まず、中国と台湾は見解が一致しておらず、接点が見出せない状態にあります。そのうえ、中国と台湾は誰がどう

見ても分裂した状態にあるという事実があります。そうした分裂した現状をふまえたうえで、お互いを尊重しつつ平和的な解決を探ろうとする必要があります。今の中国は若干圧力というものを使いながら台湾を強引に対話に引っ張りだそうとするために、かえって対話の実現できなくなっているのではないかと思います。

復旦B           大陸と台湾が統一した後、日本にはどんなメリットがありますか？

慶應（楊井）   台湾問題が平和的に解決されたならば、日本は今までどおりに台湾との経済関係を維持することができるだろうし、中国とも安定した関係を続けることができるだろうと思います。ただし、これはあくまで平和的に解決された場合の話であって、仮に軍事的に解決されようとした場合は、そのようにはならないということです。

復旦C           まず一つ常識的な問題の誤りを改めたいと思います。この問題に関して、国際社会の一般的な言い方は「中国」と「台湾」の問題ではなく、「大陸」と「台湾」の問題だと言われています。先ほど日本側の学生は、中国と台湾との間に対話がなかなかできない理由が、長い間兩岸は平等的に扱うことができないからだと言いました。しかし、皆さんはご存知でしょうか、さっきあなたたちは中国が台湾へ圧力をかけていると言いましたが、実は外国が中国へ圧力をかけていると思います。もし台湾独立勢力がなければ、中国大陆は台湾に武力を行使するわけがないのです。「中国人は中国人を攻撃しない」のは、江八点の中の重要な内容の一つであり、台湾問題は従来にわたり我々中国人だけの問題です。他国が干渉すべきではないと思います。

1937年に中国共産党と国民党は団結することができたきっかけは、まさに日本の介入であったことを忘れてはならないと思います。だから台湾問題において日本は口を挟むべきではありません。

慶應（楊井） たしかに日本は台湾が中国の一部であることを理解する立場をとっています。しかしながら今回の私たちの発表は、台湾問題は中国の内政問題であると同時に、日本の安全保障にも密接にかかわる問題であるという認識が、日本側に出てきているということなのです。また、日本は台湾と政治的関係をもっていないので、台湾に対してどうしうと言うことができません。私たちができることは、中国側に台湾問題に関して冷静に解決するよう求めることだけであって、そうでなければ、対話なきままに相互の軍事競争が進むと、近い将来必ず危険な状態を迎えると考えなのです。

司会 休憩時間になりました。

休憩

慶應A 一つ目の質問は、黄さんの発表の中にある「台湾・ギャング」(Taiwan Gang)とは具体的に何を指しているものなのか、教えてください。二つ目の質問は、日本は核兵器を持っていないからアメリカの言いなりであるという考えは、中国人に広く共有されているのでしょうか。

復旦（黄） 質問に答えたいと思います。台湾問題に関して、具体的に言えば、日本の政界には「日華関係議員懇談会」という組織があります。この問題を議論するため、私は日華議員懇談会に関する資料を読みました。その組織のほとんどの議員、例えば岸信介をはじめ多くの議員は、台湾側の意見を支持する立場にあります。私の知っている範囲では、日本の小泉首相と森喜朗前首相は同じくその組織のメンバーだそうです。

二番目の質問、つまり日本はいつもアメリカ側にあるかどうかについてお答えします。

私の知っている範囲では、この方面の専門家であれ一般の日本人であれ、両方の意見は一致しています。日米安保はもっとも顕著な証明だと思います。

慶應A 日本は独立主権国家であるということはご存知ですか。（笑）

復旦（黄） 私が知っているのは、1960年の日米安保以後、日本の現状は今のようになりました。日本は主権を持つ国家なのに、国内において反乱が起こったさい、他国の軍隊によって鎮圧される、といったことはとても信じられないことです。

慶應A それは一体いつごろのことですか。

復旦（黄） 1960年以前のことです。

慶應A 今はもうすでに21世紀なのですが・・・

復旦（黄） しかし今なお米軍が日本に駐留しています。

慶應A 米軍が駐留していないことが独立国家の定義なのですか。

復旦（黄） 外国の軍隊が駐留していると、一般的に言ってある程度、主権が干渉されることとなります。もちろん国防政策は国内政治の問題ですが。

慶應A ということは、韓国、ドイツ、サウジアラビアのような国も独立していない国と規定するのですか。

復旦（黄） ある程度そういうことです。

慶應A では、日米同盟を解消して、日本が独自の軍隊をもつことを中国は認めるわけですね。

復旦（黄） それはあなたの国の憲法の事情にも及びますので、私が口をはさむことはありません。

慶應B 今の話について言えば、日本は主体的な選択として日米同盟を選んでいるということであって、独立どうのこうのという問題では全くないということが一つ言えます。質問ですが、今日の黄さんの報告で「台湾問

題」という言葉が使われていますが、具体的に何を指しているのか分からなかった。日中関係における台湾問題というときに、何が問題なののでしょうか。今日の話によれば、台湾の人が日本に来ることが問題なのですか。もう一つの質問は、台湾問題を解決する、つまり統一する場合、それはどういった方策で中国のみなさまは可能になると考えていらっしゃるのでしょうか。

復旦(黄) 日米安保条約は日本の自主的選択であることについて思い出されるのは、1960年の改定するとき、日本で数十万人がデモ抗議をおこない、その中には東京大学の十数名の知識人学者という日本人の良知を代表する人もいました。中日関係における台湾問題とは、中国大陸と台湾が統一するさい、日本はこの問題にどういった立場や態度をとるかということです。台湾問題は中国の内政問題ですが、我々中国は国際社会に存在しており、国際的な責任感によって、中国は台湾問題を処理するさいの世界各国の反応を考慮しなければなりません。台湾問題の解決方法については、中国側はすでに台湾問題に関する白書を発表し、その解決するための原則、つまり「平和統一、一国両制」を決めています。注意して頂きたいのは、「平和統一」は前者に書いてあることです。

慶應(楊井) 今のお話で、平和統一が間近いということはまことに歓迎すべきことですが、しかしながら台湾の世論調査によると台湾人の80%が一国両制に反対しているという事実はご存知でしょうか。したがって中国大陸の政府は、もっと別の方法を考えなければならない段階にあると思うのですが。

復旦(黄) 楊井さんに答えます。台湾のアンケート調査で、80%の人が一国両制に反対していると。しかし、それは台湾が香港のように中国に一つの省として扱われることを前提としています。台湾の新党が同じ問題についてアンケート調査を行ったところ、前述の

前提をなくし一国両制で台湾問題を解決するならば、85%に近くの台湾人が賛成するということが明らかになっています。

慶應B 台湾問題を解決するという話が出ていると思うのですが、平和的解決は目標であって、実際に具体的に何をやっているのかを見れば、先ほど楊井君の報告にあった通りだと思います。中国は国際関係のなかで台湾問題を解決しなければならない。中国はアメリカや日本の「三つのノー」の確認をとろうと躍起になっております。しかしながら、本当に統一したいのであれば、台湾人の心を統一したいという気持ちにさせるアクションを中国がいかにとるのが問題だと思います。そうした観点からみるならば、中国は毎年50基の弾道ミサイルの配備を続け、現在台湾海峡には300基保有している。まさに軍事力の強化、軍拡をしているのでは中国であって、これで台湾人の心をつかむことはできるのですか。

復旦(黄) ありがとうございます。台湾人に中国と統一することを認めさせることは、まさに中国が現在直面している大きな問題なのです。ところで、ミサイル問題について、朱鎔基総理が米国や日本に訪問したさい、本人でさえ一体全体いくらのミサイルが台湾海峡付近に設置してあるかが知らないらしいのですね。ミサイル問題は国家の軍事機密であり、中国は米国のハワイに口を出さないと同じことです。台湾人民がミサイルに恐怖感を持っていることは当然のことです。数年前、クリントン大統領が中国を訪問する前には、我々中国人もアメリカの核ミサイルに対する恐怖感の下に生きてきました。重要なのは、誰がそのボタンを押すかということであり、台湾人がミサイルに攻撃されたくないと同様、中国人もミサイルに攻撃されたくないのです。「中国人は中国人を攻撃しない」というのは非常に重要な前提である以上、恐れるべきではないと思います。

復旦A 先週の土曜日午後、我々は台湾からの青年交流団とすばらしい交流会を設けました。もちろん意見の対立もありましたが、同じ血は水よりも濃い中国人であることは一致した共通点です。台湾人の情緒の問題についても話し合いました。だから台湾問題に関しては双方が協議すべきであり、国家レベルにおいて相違が見えているかもしれないが、人民レベルにおいては、兩岸とも統一することを賛成していることに間違いありません。ミサイルは特に台湾独立勢力に対するものであり、例えば沖縄列島は独立するならば、日本も同意するわけがないでしょう。ところで先ほどの、日本は一体主権国家であるのかどうかという問題について、もうちょっと議論したいと思います。日本は一つの主権国家です。しかし日本とアメリカは同じ外交上の立場をとっていると思うのです。私たちが問題を考えるときは、対立した考えをもつのではなくて、友人関係であるべきです。

慶應(田添) 先ほど、琉球が独立したら日本は反対するだろうと言われましたが、仮に沖縄が独立しようとしても日本が武力行使をするはずがありません。

小島教授 なぜそう言えるのか、その理由を言わないと。

慶應(田添) 台湾が独立しようとしたら、中国は武力行使を辞さないわけですよ。シンガポールのリー・クワンユーもそうしたことに懸念を繰り返し表明している。中国が武力行使をする可能性があることに東アジア諸国は心配しているのです。中国は東アジアの安全保障に対して、あまりにも無責任ではないですか。

復旦A 懸念を持っているのはいいけど、しかし皆さんに少し考えて頂きたいのだが、国際社会はどうして台湾独立勢力を敬遠し、我々中華人民共和国を承認しているのでしょうか。我々はずっと平和統一のスローガンを主張してきたが、要するに台湾の人々が

自分のことが中国人であることを認めれば、他に何の問題もないのです。その問題のカギは台湾指導者の安全や政治利益に対する配慮などにあります。現在台湾人は大陸に来るとき、マカオで乗り換えなければなりません。もちろん我々は直航を望んでいるが、同意しないのは一体どちら側ですか。我々は台湾問題においていつも譲歩してきたのに、なぜ傷つけられるのは常に我々なのでしょう。

復旦B まずお話ししたいのは、今日の我々のテーマは、台湾問題の日中関係に対する影響であり、単なる台湾問題ではないと思います。だから私は今の議論を少し戻したいと思います。先ほど慶應の博士課程の学生が言った台湾人の感情問題は中国の内政問題であることははっきりしています。次に、さきほどの日本側の発言に対して二つの質問したいと思います。話によれば、台湾問題は日本に対して主に安全と経済二つの方面に影響があると書いていました。まず安全の影響について、我々中国政府は一貫として平和の態度で台湾問題を処理してきたということです。いかなる問題を解決するときでも、相互妥協が不可欠な過程であることは我々がちゃんと持っている認識です。台湾側がたえず軍備を増強し、武器を購入していることを考えてみれば、責任は中国側にはないと思います。日本側の発表に武力行使に関する一章がありました。武力行使は我々最後の手段であり、我々は交渉や談判に努力し続けると思います。しかし、我々は武力行使を放棄しません。例えば九州や四国が独立するならば、日本側はどうしますか。発表の中には中国がもっと「一国兩制」の条件を緩和すべきだと言ったが、どこまで緩和したらよいかさっぱり分かりません。次に経済の影響について、もっと長い目で観察すべきだと思います。もし将来中国が統一すれば、日中貿易はさらに拡大するのではないのでしょうか。一時的な短い目で考えるべきではないと思います。

慶應（楊井） 基本的に平和的解決、武力解決は最終手段という中国の立場は、我々も知っています。しかし現実の兩岸を見ると、95、96年の台湾海峡危機以来、兩岸の対話は断絶しているということ、そして兩岸の軍事力が増大する一方という現実があります。台湾は大陸に侵攻する意図を放棄しており、一方中国は台湾に最終手段として武力で解決する可能性を残している。もし、この最終手段としての武力解決を放棄し、ミサイルを撤去するならば、兩岸関係は大いに進歩すると思われるのですが。

復旦（黄） そちらの観点では、要するに現在台湾は大陸を攻撃しないと宣言しているから、大陸側も台湾を回収すべきではないと言いました。では質問したいが、イギリスとアイルランドの問題をちょっと想起してもらいたい。アイルランドの共和軍もロンドンを奪う計画がなく、ただ国の独立を獲得したいだけだが、イギリスはその軍隊をアイルランドの領土から全部撤退させましたか、アイルランドに公民投票や住民自決させましたか。ないでしょう。イギリスは世界で最も由緒ある民主国家ですよ。

復旦C 先ほど日本側の発言及び楊井さんの回答について自分の意見を言いたいと思います。さきほど休憩時間の前での楊井さんの回答では、もし中国が平和の手段を用いて統一すれば日本にとって有利であると言ったが、武力行使すれば日本にとって許されない行動だと言っていました。私にどうしても理解できない点は、同じ統一という結果が日本に与える影響は違うのでしょうか。もし日本側は統一が有利であることを肯定するならば、どんな手段であろうが中国の内政問題であり、中国にどんな手段で台湾統一するかを要求する権利はないと思います。それから、我々は平和の手段で台湾を統一したいのであって、武力行使は我々希望する手段ではありません。しかし我々はこういう最後の手段を

放棄しません。無論、我々は武力行使したくないのです。これは中国人みな共通の考えです。ですから、我々は国際社会のほうから中国のために台湾統一に有利な環境を作っていただきたいのです。我々は日本が台湾問題においてマイナスの作用になってほしくないのです。例えば、この前日本政府が李登輝訪日を認めたことは、平和統一にマイナスだと思います。と同時に、責任感が欠けていることだと思います。日本側の発表の通り、日本も中国が平和の手段で台湾を統一することを望んでいると言っています。だから日本はもっとその役割を發揮すべきであり、今日我々のテーマは中日関係と台湾問題です。日本が一体全体台湾問題においてどんな役割を發揮してきたのかということについて、日本側の学生たちは考えたことがあるのでしょうか。

慶應（桑野） まず、台湾に対する武力行使でなぜ日本が困るのかについて、お答えしたいと思います。我々のプレゼンで指摘したように、安全保障と経済の二つの理由があげられます。我々が強調したい点の一つは、シーレーンの確保という点です。シーレーンは日本の安全保障にとってかなり重要なものなのです。シーレーンが確保できなくなると、日本の輸出入が滞り、日本は経済的に大打撃を被ることになります。次に、日中友好関係の観点から説明します。仮に台湾海峡で武力衝突が起き、アメリカがそこに介入した場合、日本は日米ガイドラインに基づき何らかの後方支援をおこなわなければなりません。その結果、日本と中国とは敵対の関係になってしまい、今まで築き上げてきた日中友好関係がご破算になってしまうことに懸念を持っています。同時に98年から日本と中国がパートナーシップ関係を結んでいることにも留意してもらいたいと思います。ここで、日本と中国は東アジアの安定と平和のために協力することが明記されています。その点からも日本は中国に武力衝突の事態を避けてもらいたいと思

っています。

慶應（根本） 桑野君の意見を分かりやすく説明しなさいと思いますが（笑） Cさんの質問では平和的解決でも武力解決でも結果は同じなのに日本にとって何の違いがあるのかという問題だと思います。平和的解決は日本にとって望ましいことです。しかし武力解決の場合、台湾海峡を日本が輸送に使えないことになります。その場合、遠回りするなどの方法をとらなければならず、日本は経済的損害を被ることになります。そのため、日本は台湾問題に対する武力解決を望まないということです。

小島教授 一言だけ言わせて。なぜ、中国に対し平和統一をくりかえし希望し、武力行使を避けてもらいたいと言っているのか。皆さんの言っている理由からは重要な点が一つ抜けていますよね。武力行使をすれば台湾の人々が犠牲になります。独立派であれ独立反対派であれ、台湾の住民が犠牲になる。そして武力を行使する中国側にも犠牲が出ますね。つまり、中国・台湾いずれにも人民に被害が出る。だから武力行使を避けたい、ということのはずです。以上です。

復旦C 先ほど日本側の発言について二点、個人的感想を述べたいと思います。まず、日本と台湾は唇亡びて齒寒しというような関係であり、これだけで日本は中国の内政問題に圧力をかける権利がないと思います。ここでは大胆で話したいが、こういう言い方は私に20世紀の覇権主義を想起させます。次に、所謂台湾海峡戦争について、これはすべて仮説であり、さっきアメリカは必ずこの問題を干渉するのだと言ったが、もっとも民主的な国家といわれるアメリカが、このような中国内政問題を干渉することはしないと思います。中国はずっと平和統一を強調してきたが、武力行使はただ一種の保留手段です。中国の人々も台湾海峡において戦争が爆発し、中国人が中国人を攻撃することを望んでいま

せん。だから再三に話したいのは、このような最悪な状況を避けるために、努力すべきは中国政府だけでなく、台湾当局も積極的でなければなりません。そして日本及びアメリカのほうも平和統一を実現するために、中国のために良好なる国際環境を作らなければならないと思います。

慶應C 武力行使についてお聞きしたいことがあります。Cさんは台湾に対する武力行使をなくせないとおっしゃっていますが、中国人どうしは戦わないと言っているにもかかわらず、どうして武力行使をなくせないのでしょうか。

復旦C さらに自分の観点を述べたい。我々が武力行使を望まないということは、最後に必ず武力行使を放棄するというものではありません。もちろん強調したいことは、我々はそれを優先手段として使いません。我々が武力行使を放棄しない理由は、台湾は中国の一部であり、最終的に台湾統一したいと思っているからです。もし我々はそれを放棄すれば、台湾問題は永久に持続していくし、永遠に統一することができないかもしれません。先ほど日本側が言った台湾島内の現状は、大陸側が望んでいないのです。我々が武力行使を放棄しないことにより、まさにこの現状を抑止しているのです。最後にもう一度強調したいのは、武力行使は優先手段ではなく、最終手段です。

慶應（福山） 武力行使の問題について重要な点は、信頼性の問題だと思います。平和的解決を言いつづけていると同時に、ミサイル演習を繰り返し、ミサイル配備を増やしている状況があります。そのような行動をしながら平和統一と言っても、台湾なり周辺諸国が信じられるのでしょうか。武力を完全に放棄するとまでは言わないにしても、軍拡を抑制するなり、削減するという明確な行動によって、信頼を取り戻すこともできるのではないのでしょうか。

## 第二部 討論の部

復旦C 一つ補充したいが、先ほど福山さんは、中国は武力行使を優先手段として使っていないと言っていたにもかかわらず、台湾海峡で軍事演習しているのではないかと言いました。これについて例を挙げて日本側にもっと理解していただきたいが、日本は日米安保条約が東アジアの安定に積極的な作用があるといっているが、日米の共同軍事演習は毎年やっているし、日本の軍備も毎年増加しているのではないのでしょうか。お聞きしたいが、もしこのような行為が東アジア地域にお

いて安定の作用になると言っているとするれば、中国が台湾海峡において軍事演習をすること自体も東アジア地域において一つの安定の作用を働いているのです。もし日本側は、日米安保条約は東アジア地域に安定の役割を担っていると考えているならば、この問題においても同じロジックで日本側が理解しやすいと思います。

司会 もう時間です。今日の討論の部はこれで終わります。何かまだ質問があれば、明日午後の自由討論で発言してください。